



平成26年2月28日  
内閣府（防災担当）

## 南海トラフの巨大地震モデル検討会（第42回）及び 首都直下地震モデル検討会（第24回）合同会議 議事概要について

### 1. 検討会の概要

日時：平成25年8月19日（月） 10:00～12:00

場所：中央合同庁舎第3号館 防災A会議室

出席者：阿部座長、入倉委員、岡村委員、金田委員、佐竹委員、平川委員、平原委員、福和委員、室崎委員、山崎委員の南海トラフ巨大地震モデル検討会の各委員

阿部座長、岡村委員、佐竹委員、平田委員、福和委員、山崎委員の首都直下地震モデル検討会の各委員

### 2. 議事概要

最大クラスの強震断層モデルの長周期地震動の計算手法などについて事務局から説明を聴取し、委員間で議論を行った。今回の議事の概要は次のとおり。

#### 【首都直下の地震に関する検討】

○埼玉地域の増幅特性を評価するためには浅いところの地盤条件で増幅率が決まっているかもしれない。ボーリングデータに基づいて、浅いところで増幅特性が決まっているようであれば説明に含めるべきではないか。

○スラブ内地震を設定で、岩田・浅野の関係式は震源インバージョンの結果であり、面積は大きめになる。フォワード計算による解析では、面積が少し小さくなり応力降下量は大きくなる。今回の与え方は、両方の折衷的なものとなっており、結果としては大きくなるが、防災上はよいのではないか。

○今回検討対象としている都心直下の地震について、プレート内地震を仮定してモーメントを変えて安政江戸地震を再現したということか。

○断層の場所も仮定し、安政江戸地震の最大震度を再現する規模のものを作ったもので、安政江戸地震を概ね再現したモデルということになるだろう。

○最大クラスのモデルとしては、東京湾北部地震自体は検討対象外となったものの、その震度分布を再現するように強震動生成域を設定してはどうか

○最大クラスのモデルの平面図において図示されているすべり域が非常に広いが、実際は背景領域や蛇紋岩域等の実際は地震動を出さない領域も含むのに全体が動くような感覚を受ける。実際は地震動を出さない領域を削った図は描いてはどうか。

【南海トラフの過去地震の再現】

○南海トラフの過去地震再現モデルは学術上も重要なデータであり、信頼度等を整理して発表してはどうか。

【長周期地震動に関する検討】

○図面がわかりにくい。長周期地震動の特徴をうまく表現し、対策等に生かすこと出来るように表現を工夫するべき。

○観測と計算との応答スペクトル比について3秒のあたりが過小評価となっている。差分の計算だけでこのあたりの加速度応答計算が正確に計算できるかどうかは検証が必要ではないか。

○断層破壊開始位置によって揺れる地域や揺れの程度が変わっているように見えるが、これだけの差が生じているとしたらSMGAの破壊開始位置をどう配置するかが課題となる。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当参事官 藤山 秀章

同企画官 中込 淳

同参事官補佐 平 祐太郎

TEL : 03-3501-5693（直通） FAX : 03-3501-5199